

赤十字かごしま 10月号

Vol. 196



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字基本原則：人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

□発行所：日本赤十字社鹿児島県支部 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町1番5号 TEL099 (252) 0600 [平成26年10月発行]

日本赤十字社・公式マスコットキャラクター 「ハートちゃん」が誕生しました!!



ハート型の耳、おでこの赤い十字と真っ白な体に赤いしま模様がチャームポイント。

「ひとりでも多くの苦しんでいる人を助けたい」という熱く優しい心を持っています。

これからのハートちゃんは日本赤十字社の「顔」として、あちこちに登場しますので、是非皆さん楽しみにしてください。



青少年赤十字メンバーと指導者を ベトナムに派遣！

平成26年8月17日（日）～23日（土）、
6泊7日の日程で、九州各県の青少年
赤十字メンバーと指導者ら28名が、ベト
ナム社会主義共和国へ派遣されました。

この派遣事業は、青少年赤十字の実
践目標の一つである「国際理解・親善」
の一環として行われるもので、鹿児島県
からは、高校生2名と指導者1名が参
加しました。

一行は、ベトナム赤十字社の訪問や、
現地の青少年赤十字メンバーとの親善・交
流を深めたほか、日本赤十字社が支援している防災を目的としたマングローブの植樹を体験しました。



ベトナム赤十字社を訪問

■参加者の声



マングローブ植樹を体験



現地の青少年赤十字メンバーとの交流

- 今回のベトナム海外派遣を通して、ベトナムの歴史や文化について、たくさんを知ることができ、なかなか行くことのできない日本国大使館への表敬訪問やマングローブ植樹など多くの体験をすることができました。
- 他県の高中生と交流ができ、非常に楽しかった。
この経験を今後の学校でのJRC（青少年赤十字）活動に活かしていきたい。



鹿児島県赤十字血液センター

第6回 楽しく学ぼう！ キッズ献血

キッズ献血が始まって6年目、1,800名を超える方々に参加いただきました（保護者を含む）。
今年度は、8月21・22・23日の日程で開催され、258名の方が参加されました。



献血の模擬体験▶

参加した子供たちは、それぞれの役（献血者、センター職員、医師、看護師）になりきって、献血の模擬体験を行いました！



◀ 命の授業

いのちの大切さや、他の人のことを思う「利他の心」をみんなで学びます！



■ 参加者の声

普段体験することのできないことを学ぶことができた。親も子供も勉強になった。（保護者）
献血の大切さがよくわかった。小学生のころからこのような授業を受けて、勉強していくことで将来役に立つと思う。（保護者）

血液がこんなに大切だなと思った。献血している人を見ると、人の命を助けたいという気持ちが伝わってきた。（小学4年生）

小さいときお父さんがけんけつをやっているとき、「何をやっているのかな」と思っていました。注射が嫌いだけど、僕の血のおかげで人が助かるならやりたいと思います。（小学5年生）



特別養護老人ホーム錦江園

楽しい企画が ぞくぞく！

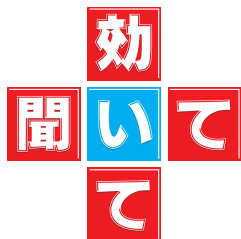
錦江園がユニット型特養に移行してから約半年が経ちました。ユニットケアとは入居様を10人程度のグループに分けて暮らしていただくケアの方法です。園内の7つのユニットでは、それぞれ様々な催しを企画して入居様に楽しんでいただいております。

なかでも、ホットケーキ、たこ焼き、お好み焼きやケーキなど、お料理やお菓子作りに入居様も参加して食べていただく企画は大好評です。入居様ご自身に包丁を握っていただいて、材料を切ることや調理していただくことはもちろん、特にケーキ作りでは材料の買い出しに行くことから始めていただきました。

イベントが始まると、ユニット内にお好み焼きやケーキなどの香ばしいにおいがただよいます。自ら調理に参加することで五感を刺激され、食が細い入居様もパクパク食べられるなど、いい効果をもたらしているようです。

これからもユニットではいろいろなイベントを企画し、入居様に楽しい時間を提供していきます。





VOL.61

介護保険を上手に活用して

鹿児島赤十字病院 居宅介護支援事業所

介護支援専門員 ^{しも}下 ^の野 ^{あき}亮 ^こ子

私は、鹿児島赤十字病院内の居宅介護支援事業所に勤務しています。

私事ではありますが平日は介護支援専門員として業務を行い、休日は実母の介護を行っています。

私の母は、生まれつき下肢は不自由でしたが車の運転ができていたので、あまり気かけずにいました。しかしながら、加齢とともに身体機能の低下をきたしたため、介護保険を導入し自宅のリフォーム・家具の調整・福祉用具の導入等で環境を整えました。自宅での生活が改善され、現在も独り暮らしを続けることができます。

普段は介護支援専門員として利用者と家族との架け橋になることもありますが、自分の家族のことになると、母の話をゆっくり聴くことができないことや、反発してしまうことがあり、その度に反省を繰り返しているのが現状です。

わが国では、介護や支援を必要とする方を社会全体で支えていくために、平成12年に介護保険制度がスタートしました。超高齢社会を迎え、介護や支援が必要な方々が増加していく一方で、それを支える労働人口も減少し、介護問題はわが国の最重要課題の一つとして挙げられています。介護保険の導入に当たっては、「介護」という言葉に抵抗がある方もいらっしゃると思いますが、個人や家庭だけで介護問題を抱え込んでしまい、もっと早く相談すればよかったと聞くことも少なくありません。「介護」でお悩みの際はお住まいの地域の地

域包括支援センターや居宅介護支援事業所でご相談されることをお勧めします。



相談窓口



介護支援専門員とは？…

介護保険法において要支援・要介護認定を受けた方の居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、様々なサービス事業者との連絡調整する専門職です。通称ケアマネージャーといえます。

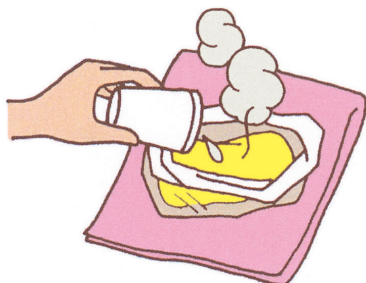
ホットタオルの作り方

災害時、避難所生活の中では、普段どおりにからだを清潔にすることは容易ではありません。お風呂に入れないうちは、熱いタオルでからだを拭くだけでも、気持ちをよくし、心身の緊張をほぐすことができます。

【準備品】

- タオル…………… 2
- ビニール袋…………… 1
- カップ（コーヒーカップ等）…………… 1
- 熱湯 約100ml～120ml（タオルが湿る程度）

1 ビニール袋にタオルを一枚入れ熱湯をかける。



2 乾いたタオルに包んで軽く押さえる。



作るときや使用するときには、やけどに注意しましょう。
ホットタオルでからだを拭いたあとは、乾いたタオルで湿り気を拭きとります。

講習会のご案内

知って得する赤十字講習会を、あなたも受講してみませんか？



幼児安全法

教本がリニューアルされました！

子どもに起こりやすい事故の予防とけがの手当、かかりやすい病気の対処法などについて学べます。また、今回より新しく、ご要望が多かった「食物アレルギー」や「災害時の乳幼児支援」についての内容が加わりました。

- 開催日 11/ 8 (土)～9 (日)
- 時 間 9 : 00～17 : 00
- 会 場 県赤十字会館
- 教材費 1,800円
- 対 象 満15歳以上
- 定 員 30名

他にも、AEDの使い方や心肺蘇生などを学ぶ「救急法」、水の事故から身を守るための「水上安全法」、高齢者の支援に役立つ介護技術を学ぶ「健康生活支援講習」を行っています。詳しくは下記までお問い合わせください。

ご自身や故人の思いを赤十字へ…

近年、ご自分や故人の財産の一部などを広く社会に役立てたいというご相談やお申し出を多くいただいております。

当県支部では、こうした尊いご意思に応えるために、遺産・相続財産の寄付などを承っております。また、これらの寄付金には非課税となる税制上の優遇措置があります。詳しくは、右記までお問い合わせください。



日本赤十字社 鹿児島県支部
Japanese Red Cross Society

☎ 099 (252) 0600

URL : <http://www.kagoshima.jrc.or.jp/> E-mail : shibu-rc@po.minc.ne.jp

日赤鹿児島県支部

検索